

科目名	日本経済論 I	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群	
			経済学科	□ 必修 ■ 選択
			学科	□ 必修 □ 選択
英文表記	Japan's Economy	開講年次	□ 1年 □ 2年 ■ 3年 □ 4年	
		開講期間	□ 前期 ■ 後期 □ 通年 □ 集中	
ふりがな	たむら ひであき	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	田村 英朗	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用	
授業のテーマ	戦後の日本経済が歩んだ軌跡を回顧すると同時に、今日の日本経済の現状と抱える課題を概観する。			
到達目標	戦後の日本経済が歩んだ軌跡を理解し、今日の日本経済の現状と抱える課題を説明できる。			
授業概要	テキストに沿って解説していきます。時々、応用問題を交えて理解を深めていきます。			
授業計画				
第1回	日本経済論への招待			
第2回	高度成長はなぜ実現できたのか			
第3回	バブルとその後の長期停滞			
第4回	労働市場の構造変化と所得格差			
第5回	中小企業・ベンチャー企業の役割			
第6回	産業構造の変化と日本経済の盛衰			
第7回	環境・エネルギー問題の克服			
第8回	日本の金融システム			
第9回	デフレと非伝統的金融政策			
第10回	財政の維持可能性			
第11回	地域経済と政府の役割			
第12回	人口減少と社会保障			
第13回	国際経済の中の日本経済			
第14回	平成経済から令和経済へ			
第15回	復習			
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	1. 授業で配るプリントや課題に十分に取り組んでください。(1時間程度) 2. 日頃から日本経済新聞やその他の経済誌に目を通すようにしてください。(0.5時間程度)			
履修条件 受講のルール	テキストに沿って講義を進めるので、必ず購入してください。なお、適宜資料を配布しますが、事前に連絡が無く欠席した学生には原則配布しませんので、友人同士でコピーして下さい。			
テキスト	宮川 努、細野 薫、細谷 圭、川上 淳之『ベーシック+ (プラス) / 日本経済論 (第2版)』中央経済社、2021年。			
参考文献・資料	大守 隆 (編)『日本経済読本(第21版)』東洋経済新報社、2019年。			
成績評価の方法	小テスト・レポート40%、定期試験60%をおよその目安として、総合的に評価します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解、および予習復習が充分であるかを確認するため、授業中に小テストを行います。 ・レポート課題は授業内又は掲示板(ポータルサイト含む)で指示します。			

オフィスアワー	担当科目がある曜日の第5時限の時間帯 ※これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。(毎週木曜日を除きます)
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	経済学を学ぶことの実社会における利益は、合理的に思考しながら広い視野の下で考え、行動することの価値が学べることであると感じています。本講義の日本経済論で学んだ知識を素養として、我々が深く関わる日本経済の課題を把握し、実証分析にも役立てることを目差して頑張ってください。